

令和6年度 江戸川区立瑞江中学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	『自ら育つ』 一、ものごとを正しく深く考え創造力の豊かな人になる（学習） 二、健康なからだで豊かな心情の人になる（心身） 三、思いやりの心をもち進んで協力する人になる（協調）	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	【学校像】①生徒が大切にされ、喜びのなかで温かさや楽しさのある指導をする学校②教師と生徒が強い信頼の絆で結ばれている。保護者・地域に信頼される学校③積極的に進歩され、教員自らの持ち味が生き残り、活力のある学校 ④授業時数の確保はもちろん、質の高い授業を元にした授業が展開されている学校 【生徒像】①意欲的に学力向上に努力する生徒②思いやりの気持ちと豊かな心をもち、ルールを守る生徒③積極的に体力向上に努力する生徒④物事に真摯に取り組む、誠実な生徒 【教師像】①生徒に対する愛情と厳しさをもち、公平に接し、共感的態度で指導に当たる教職員 ②常に授業改善に努め、わかる授業を展開し時代の求める学力を身につけさせる教職員 ③職務能力向上に努め、持ち味を発揮して、学校運営に主体的・組織的に関わる教職員 ④あいさつ・服装を正す・提出期限の遵守など、率先垂範して生徒の手本となる教職員
前年度までの本校の現状	成果 「学力向上」については、各教員が「ねらい」を明確にした授業を行い、グループ学習を通して、言語活動や思考・判断・表現の力の育成を図るなど、授業改善の姿勢が見えた。 「健全育成」については、特別支援委員会・不登校対策委員会を毎週開催し、情報交換や生徒の課題に応じた対応を協議することで、一人一人の生徒、保護者に寄り添った丁寧な対応ができています。SCやSSWとの連携ができており学校と保護者との関りも良好である。学校生活全体は学校生活満足度が高い生徒が多く落ち着いた学校生活を送っている。	課題 四管理二監督の中で、生徒・学校の実態から「学力向上」「校務の組織化」「施設設備管理」を課題として挙げる。「学力向上」は、生徒の基礎学力向上のため、学習習慣の定着、学力調査で判明した課題の補充、ICTの活用など。「校務の組織化」は、会議の効率化、職員の再確認、学習や評価を統括する部署の明確化など。「施設設備管理」は、グラウンド表面に大きな瓦礫が埋まっていたり危険なことや、教室や準備室の活用状況を適正化すること。防草シートで覆った校地を戻すことや、15年以上前のポスターが掲示されている状況の改善など。	

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A~D)		「中間」学校関係者評価(A~D)		「年度末」自己（学校）評価(A~D)		「年度末」学校関係者評価(A~D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○進路指導の充実による、学習意欲の涵養と、学習習慣の向上	・生き方指導につながる進路学習の充実 ・家庭学習ノートを用いた、家庭学習への取組	・1,2年保護者進路説明会参加50人以上。 ・毎日の家庭学習ノートの提出とチェック	A		A	・1,2年保護者の参加者は55名と意識の高まりを感じる。 ・家庭学習ノートの取り組みが定着した。	B	・1,2年生から進路について意識づけさせる必要性を感じる。 ・家庭学習の習慣を付けさせるのは良いことである。					
	○授業改善による、基礎・基本の確実な習得と、区の事業も活用した補習の充実	・個別に行う授業改善アドバイスの実施 ・学校と民間事業者による放課後補習教室の実施	・授業改善アドバイス年100回 ・放課後補習教室への登録率100%	A		A	・自己申告の面接中心に授業改善のアドバイスを行っている。 ・放課後補習教室への登録率は現在100%である。	B	・学校が生徒に学力を付けさせようとする姿勢がよく見える。					
	○ICT機器を活用した授業の実践	・全教員によるデジタル教科書やドリルパークなどタブレットの活用	・タブレットを活用した授業を毎週実施後期は80%	B		B	・ほとんどの教科でタブレットが積極的に活用されているが、教科によって活用度はばらつきがある。	B	・タブレットを含めたICT機器を用いて分かりやすい授業をしてほしい。					
	○読書科の更なる充実	・行事の事前学習の中での、探究的な学習への取組	各学年、年間1度は探究的な学習を計画的に実施	B		B	・行事などでの調べ学習を通して、探究する力を身に付けている。	B	・スマホ依存も多いと聞くので、読書の機会を増やしてほしい。文章を読む力も付けてほしい。					
体力の向上	○運動能力や基礎体力向上に向けての取組強化	・新体力テストの測定と結果の活用 ・体育の授業の導入における、ランニング、準備運動、補強運動の実施	新体力テストの体力合計点が都の平均以上 毎回の授業で実施	B		C	・2年生の女子と3年生の男子が平均を下回っており、分析をしていく必要がある。	B	・体力が落ちてきていると聞いているので、体力向上を図ってほしい。					
	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた窓の取組の推進	・巡回指導や特別支援教室専門員の活用、日本語指導員や日本語教室との連携	・毎週1回、通常学級担当教員と特別支援教育担当教員の打ち合わせを実施	A		A	・毎週1回、通常学級担当教員と特別支援教育担当教員の打ち合わせを行い、情報交換や課題について話し合っている。	B	・多様な背景を持つ生徒に対応した指導が行えいていると感じる。					
不登校・いじめ対応の充実	○不登校生徒の校内での居場所づくりの確保	エンカレッジルームで不登校やその傾向のある生徒に向けた支援の実施	・毎日エンカレッジルームに別室指導支援員を配置	A		A	・別室指導支援員をほぼ毎日エンカレッジルームに配置し、生徒の支援につなげている。	A	・学校に通えてない生徒に対する様々な支援がされていることが分かる。					
	○Ohyper-QUの活用	・QUテストの生徒の実態把握に基づいた指導の推進・面談などでの活用	・学級生活満足群の人数割合が、全学年平均で50%以上	A		A	・学級生活満足群が1年は63%、2年は54%、3年は64%と全学年が50%を超え、全国平均41%を超えている。	A	・生徒たちは楽しそうに学校に通っている様子が見える。					
	○生活アンケートの活用	・アンケート結果を活用し、早期発見・早期解決を実践	・訴えのあったいじめは3カ月以内に100%解消	A		A	・6月末までに2件のいじめの報告があったが、現在は解決している。	B	・いじめに対して丁寧に対応していることが分かる。					
学校（園）開かれた地域の実現	○学校公開の実施・充実	・年4回土曜授業と年2回の学校公開週間の実施	保護者の参加率40%以上	B		B	・保護者の参加率は50、1%であった。学校公開週間で（月）～（木）の参加者が少ないことが課題である。	B	・いろいろな場面で学校の様子を知ることは大事である。					
	○学校ホームページの充実	・学校ホームページの更新	・授業日の更新を90%以上	A		A	・授業日はほぼ100%更新が行えている。	A	・ホームページを見ることで学校の様子がよく分かる。					
	○学校だよりの充実	・学校だよりの発行	・年10回以上発行	A		A	・8月を除く毎月、順調に学校だよりを発行し、学校の様子を地域に伝えている。	A	・学校だよりを発行することで、行事や生徒の様子を知ることができる。					
教育の展開	○ALTの効果的な活用および英検の充実	・ALTの授業での活用と放課後のカンパセーションクラブの実施	・英語検定3級以上の取得率50%以上	B		C	・6月現在、3年生の英検3級以上の取得者は24、8%である。受検の啓発も今後行っていく。	B	・英検に対して瑞中生は毎年とても意欲的に臨んでいると聞くので今年も頑張ってもらいたい。					
	○ボランティア活動の推進	・ボランティア活動の積極的な紹介	・全校生徒の80%がボランティア活動に参加	B		C	・自転車盗O運動や総合防災競技大会などに参加した。2・3学期に多くのボランティア活動があるので参加予定である。	B	・ボランティア活動を通して、奉仕や思いやりの気持ちを持ってほしい。					
	○働き方改革の推進	・会議の精選 ・月1回の定時退勤日の設定	・会議を30%削減する ・定時退勤日の全教職員の定時退勤	B		B	・朝の打合せを廃止するなど大きく会議の回数を削減できた。 ・定時退勤日に退勤していない教員がいるので注意喚起する。	B	・残業が多いと聞く。原因は何なのか分析してほしい。					